

演 題: 牛の脾臓

機 関 名: 豊橋市食肉衛生検査所

氏 名: 葛岡 功弥子

動 物 名: 牛

品 種: 黒毛和種

性 別: 去勢

年 齢: 2 歳

病 歴: 6 日前に元気消失との稟告を受け、初診。加療するも、予後不良と判断。

生 体 所 見: 起立位で搬入。発育不良。腹囲膨満。

### 内臓所見

脾 臓: 著しい脾腫(102×33×10cm)。被膜はやや菲薄化し、実質は脆弱。断面は赤色で膨隆し、白脾髄不明瞭。脾頭部には暗赤色部位(25×17cm)があり、境界不明瞭で、表層部から実質内部に及ぶ。

心 臓: 右心耳辺縁部で表面に隆起する白色結節(1~3cm)多発。断面でも同様の結節を観察。結節は境界不明瞭で、無構造かつ充実性。

リンパ節: 腫大。耳下腺リンパ節(11×5×5cm)、浅頸リンパ節(15×9×7cm)、腸間膜リンパ節(6×5×3cm)、内腸骨リンパ節(4×4×3cm~7×6×5cm の 5 分節からなる集塊)、膝窩リンパ節(6×5×3cm)。断面は膨隆し、黄白色から赤色の髄様で、部分的に固有構造を保持。一部に出血を伴う。

### 組織所見

脾 臓: 一様に腫瘍細胞が増殖し、固有構造は消失。一部、脾臓動脈あるいは中心動脈を鞘状に囲む小リンパ球集団が残存していた。腫瘍細胞はリンパ球様で、大小不同、核形態は円形から多形性、染色性は濃染からクロマチン疎なものまで多様であった。核分裂像が高頻度に出現し、核崩壊像も多数見られた。暗赤色部分では赤血球を多数認めた。

心 臓: 結節部位には脾臓と同様のリンパ球様細胞がび慢性に増殖していた。これらのリンパ球様細胞は結節周辺部では心筋層の筋束間及び筋線維間に浸潤。

リンパ節: リンパ球様細胞の増殖により固有構造はほぼ消失していた。

### 血液所見

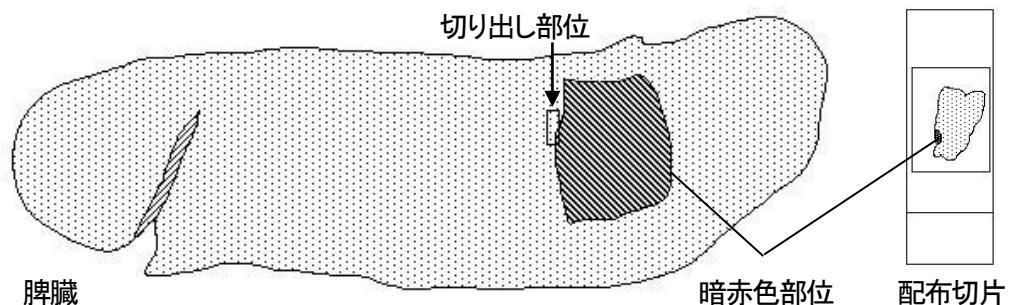
血 液 検 査: Ht 値; 17.1%、RBC; 480 万/ $\mu$ 、WBC; 4,300/ $\mu$ 。

血液塗抹検査: 大型で幼若なリンパ球様細胞を認めた。

受身赤血球凝集反応法による牛白血病ウイルス抗体試験(日生研): 陽性(抗体価 1024 倍以上)。

固 定 方 法: 10%中性緩衝ホルマリン

切り出し部位:



行 政 処 分: 全部廃棄

組 織 診 断 名: リンパ腫

疾 病 診 断 名: 牛白血病